



AV通信

8月15日「平和の鐘を鳴らそう」行事实施



本年も、71年目の終戦記念日に当たる8月15日(月)、芦屋市・芦屋市教育委員会・芦屋ユネスコ協会が共催し、「平和の鐘を鳴らそう」行事を盛大に実施しました。

第1部では、芦屋市民センター玄関横の「優愛の鐘」広場に、山中市長をはじめ、芦屋ユネスコ協会会員やその家族、また市民など約100人の皆さんが集い、『平和の祈りと願い』を込めた行事を実施しました。

山中市長の挨拶の後、ユネスコの「平和宣言」を参会者全員で唱和し、正午のサイレンとともに黙祷、その後参会者それぞれの思いを込めて「優愛の鐘」を高らかに鳴らし、平和への誓いを新たにしました。

引き続き、会場を市民センター401室に移し、平和のつどいを実施しました。

冒頭に、芦屋市立公民館担当の蓮沼純一氏によるミニ講話「阪神間文学にみる大戦下の街と暮らし」がありました。公民館で開催されている同名展示の紹介をはじめ、戦時下の芦屋の文化と歴史を再確認させていただきました。

その後、役員・会員有志にご用意いただいた戦時食のふかし芋とおにぎりを食しながら、参加されていた数人のかたから、戦中・戦後の体験談、戦争の悲惨さや平和がどれだけ大切かについて、切々と語っていただきました。

それぞれのお話に、戦後71年が経過した今日ではありますが、参加者全員が感銘を受けました。

最後は、本行事の記念イベント「みんなで平和のうたを歌いましょう！」が実施されました。声楽家・寺脇優子さん(ソプラノ)による歌唱指導があり、金沢佳代子さんのピアノ演奏と浅田太枝子さんの手話歌指導で「ともだち讃歌」・「上を向いて歩こう」など全員で合唱しました。



こうして今年も、芦屋から世界に向けて「平和の祈りと願い」を力強く発信できました。

ユネスコは「平和の志」を掲げ、「二度と戦争を起こしてはならない!」「世界の平和と人類の福祉に貢献する」ことが活動の原点です。この心をつなげて行くためにも、芦屋ユネスコ協会の「平和の鐘を鳴らそう」行事は、21年間途切れることなく継続実施されており、市民の皆さんに定着してきています。マスコミにもこの芦屋の行事は毎年注目されており、本年も報道関係各社の取材をいただき、翌日の新聞に大きく紹介されました。また、J:COM(CATV)やNHKでも、その日の夕方のニュースで放送されました。

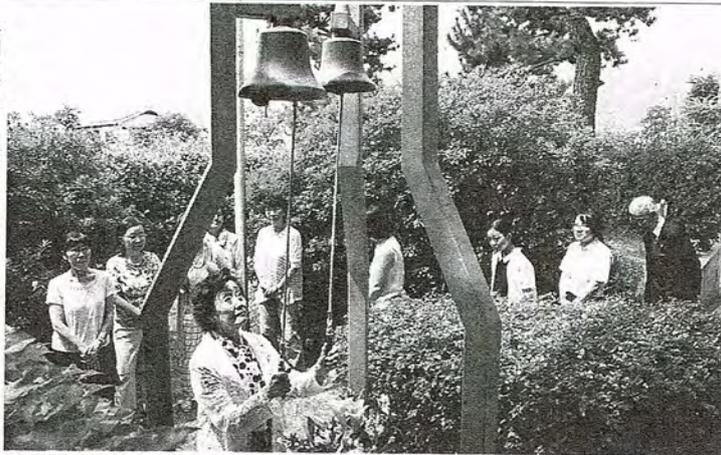
その一部、毎日新聞・神戸新聞・読売新聞の記事を、報告に代えてご紹介します。

平和の鐘祈り響く

終戦の日 戦中・戦後語り継ぐ

芦屋

終戦の日の15日、芦屋市民センター(芦屋市業平町8)で平和について考える行事が開かれた。市民約50人が20年前に平和を祈って設置された「優愛の鐘」を突き、ふかし芋などを



平和を祈って「優愛の鐘」を突く参加者
芦屋市民センターで

を食べながら戦中・戦後を語り継いだ。芦屋ユネスコ協会や芦屋市などが主催。戦争犠牲者をしのぐため、黙とうをささげた後、参加者が1人ずつ鐘を鳴らして手を合わ

せた。芦屋市の岳よし子さん(88)は、父親の山崎義一さんが1946年に撮影した神戸市内の写真を持参した。現在のJ.R元町駅の高架下にあったヤミ市の様子などが撮影されており、「当時はおにぎりや日用品などが置いてあり、何でも売れた。何もかも不足し大変だった」と振り返った。疎開先の篠山市から神戸空襲の黒煙が見えたこともあったという。

田美佳さん(13)は「戦争の状況を伝える人が少なくなり、忘れられてしまうのは残念。こうした行事に積極的に参加し、戦争を知って伝えていきたい」と話した。

【石川勝義】



主催 芦屋市・芦屋市教育委員会・芦屋ユネスコ協会
平和の鐘を鳴らそう



2016年8月15日「平和の鐘を鳴らそう」

(平成28年)8月16日 火曜日 新 戸 申 報

正午に黙とう 平和の鐘

終戦の日 芦屋で式典、60人参加



戦時中の記憶を伝え、平和の大切さを語り合う式典「平和の鐘を鳴らそう」が15日、芦屋市民センター（業平町）で開かれた。参加者は正午に合わせて鐘を鳴らし、平和への



④ふかし芋などを食べながら戦争体験に耳を傾ける参加者
⑤「優愛の鐘」を鳴らす参加者ら
⑥「優愛の鐘」を鳴らす参加者ら

願いを込めた。同市と芦屋ユネスコ協会などの主催。毎年「終戦の日」に合わせて開催し、今年は約60人が参加した。

集まった市民らは正午のサイレンに合わせて黙とう。センター敷地内にある「優愛の鐘」を打ち鳴らすと、ふかし芋やおにぎりを食べ、戦争体験者の言葉に耳を傾けた。陸軍将校だった父親の写真を持参した芦屋市東山町の青山睦子さん(79)は父親が「勉強

(篠原拓真)

2016年8月15日「平和の鐘を鳴らそう」

2016年(平成28年)8月16日(火曜日)

訃

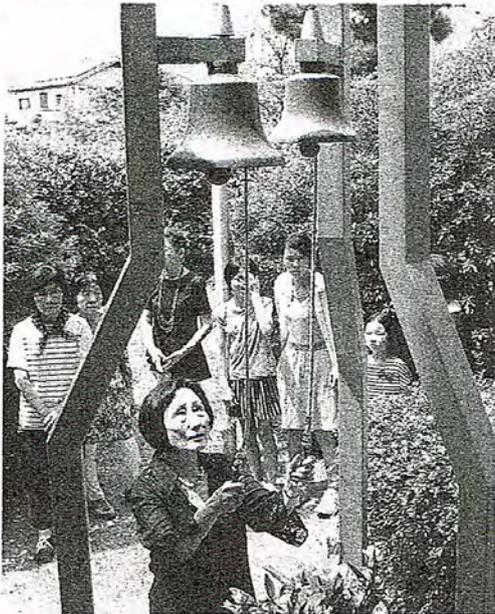
言

平和が日常であるように

終戦記念日 宝塚、芦屋で追悼、誓い

71回目の終戦記念日を迎えた15日、阪神間でも関連行事が行われた。戦没者の遺族や市民らは、追悼の思いをささげ、平和な社会の実現を改めて誓った。

宝塚市役所近くの末広中央公園では、「終戦記念日」のつどい「平和の鐘」の前で



①平和への思いを込め、手を取り合って合唱する市民ら(宝塚市で) ②鐘を鳴らして平和を祈る人たち(芦屋市で)

黙とうし、平和への祈りを込めて合唱した。市遺族会会長で、父をフィリピンのルソン島で亡くした川西武信さん(73)が「戦争を始めるのは人間。人間の力で

戦争を起ささないようにできるはず」などと語りかけた。

また、市内の小中学生が戦争のない世界に向けて、「相手の心を傷つけないようにしたい」「戦争の体験を伝え続ける」とメッセージを読み上げた。同市千種、主婦川野美智子さん(83)は「空襲で命を失った多くの人を見てきた。あんなむごいことは二度とあってはならない」と話していた。

芦屋市業平町の市民センターでは、「優愛の鐘」を鳴らす追悼行事が行われた。

鐘は阪神大震災の犠牲者追悼のために作られ、芦屋ユネスコ協会などが毎年、この日に開催。市民ら約60人は黙とうした後、一人ずつ鐘を鳴らし、手を合わせた。また、持ち寄った戦後の闇市の写真などを見ながら、戦時中の記憶や平和へ

の思いを語り合った。

外国の戦地から送られてきた父の写真を大切に持っている、同市の青山睦子さん(79)は「戦争は当たり前で日常を奪ってしまう。平和を守ることは、今を生きる私たちの務めです」と話した。

第37回 阪神間ユネスコ協会連絡会 合同事業

歌劇の街・宝塚を訪ねて



理事、八木理事・青山会員など 12 人が参加しました。

午後 1 時に開会した催しは、宝塚ユネスコ協会の顧問でもあり日本考古学協会会員でもある直宮憲一氏による講演会「歌劇の街・宝塚」と、宝塚ユネスコ合唱団による「懐かしのメロディー」を中心に構成されていました。

直宮氏の講演では、宝塚の歴史について、小林一三氏と阪急電鉄や宝塚歌劇誕生のころのお話をお聞きました。

宝塚ユネスコ合唱団は、宝塚市の平和記念行事などにも参加するなどの活動をされているとのことでした。

また会場の壁面には、宝塚市が誕生したころの写真、それ以前の宝塚温泉・宝塚歌劇場・宝塚ホテル・蓬莱橋や逆瀬川商店街など、昔懐かしい写真の展示があり、また会場 2 階の「すみれミュージアム」には、旧宝塚音楽学校の歴史や 80 年に及ぶタカラジェンヌたちの展示を鑑賞することができました。

来年は、合同事業を西宮ユネスコ協会が担当しますが、平成 30 年には芦屋が担当することになります。

過去の合同事業の歴史に学びながら、より芦屋らしい合同事業の開催に向けて、これから考えていかなければと思いました。

(文責：南 ゆう子)

秋晴れに恵まれた体育の日・平成 28 年 10 月 10 日(月)、宝塚市立宝塚文化創造館(旧宝塚音楽学校)を会場に、「第 37 回 阪神間ユネスコ協会連絡会 合同事業—歌劇の街・宝塚を訪ねて—」が開催されました。

阪神間各市のユネスコ協会会員の約 100 人が参加し、芦屋からも森・塩井・西本副会長をはじめ塩井事務局長、永井・徳矢・藤井・戎井・青木・南常任



2016年 近畿ブロックユネスコ活動研究会

テーマ「地域に根ざしたユネスコ活動」



10月15日(土)快晴のなか、日本一の桜の名勝・吉野山、日本人の持つ精神文化と深くつながり育んできた世界文化遺産の地・吉野(竹林院群芳園)で、近畿ブロックユネスコ活動研究会が開催されました。

芦屋ユネスコ協会からは、塩井事務局長・戎井常任理事・青木常任理事・藤井常任理事・中川理事の5名が参加しましたが、会場は約170名の参加者でにぎわっていました。

オープニングイベントは、金峯山寺修験者による法螺貝の吹奏で始まり、開会挨拶がありました。

午後からは、基調講演として金峰山寺第31世管領・五條良知師の講演「日本一の桜の名勝吉野山と修験道」に、参加者一同大変興味深く聞き入りました。さらに、もう一つの基調講演として「成熟した世界遺産の在り方を目指して」が、文化庁記念物課世界文化遺産室文化財調査官・鈴木地平氏からありました。世界遺産についての最近の動向、また平成28年登録の国立西洋美術館〜ル・コルビュジエの建築作品群、平成28年推薦「神宿る島」宗像、沖ノ島と関連遺産群等、内容を詳しく説明され大変勉強になりました。

その後、休憩と子どもたちの創作舞踊をはさみ、事例発表が行われました。

最初の発表は、奈良ユネスコ協会青年部からの「近畿ブロックにおける青年ユネスコ活動の現状と今後について」。次に、奈良教育大学から「奈良ESDコンソーシアムについて」活動報告がありました。今後の課題としたいと思います。

次期開催地は、和歌山県紀北ユネスコ協会です。

(文責：塩井君子)





次代へつなごう 「芦屋の未来遺産」

～芦屋文化の100年リレー⑧～

「未来遺産運動推進委員会」は、1年に2回、5月と11月の第4火曜日に開催しています。

そのメンバーは、委員長が芦屋ユネスコ協会会長、副委員長には同じく芦コ協の森会長と上野監査委員、委員には永井・徳矢・南常任理事、専門委員に岩本前美博副館長と今年から加わっていただいた“芦屋学研究会”の若林事務局長、芦屋市教育委員会からは社会教育部長・生涯学習課課長・主査・担当職員、そしてアドバイザーとして市や市教委の課長さんが数名で構成されています。

今回は、若林専門委員が提供して下さった「芦屋学研究会紀要」創刊号に掲載されている、わが廣瀬忠子名誉会長の『芦屋・神戸辺りの思い出(1926～)』<2014年1月1日発行>という素敵なエッセーの中から、“芦屋の魅力”について、その一部を抜粋してご紹介したいと思います。

(文責:南 ゆう子)



◆芦屋市婦人会のこと

…(前略)…

終戦になり、戦地から次々と兵隊さんが列車で帰ってきました。

列車が、ダイヤの都合で芦屋駅に40分程停車すると聞き、昭和20年12月、発足したばかりの婦人会の、「初めてのボランティア活動」として、薪・茶の葉を持ち寄り、駅で、復員兵へお茶のサービスを始めました。復員兵は「日本へ帰ってきて、初めて故国のお茶を飲む」と大変喜びましたが、この好意は、進駐軍への敵対行為だとして、当時芦屋市婦人会会長をしていた母の廣瀬勝代は、GHQに呼び出されました。当時は進駐軍に睨まれると戦争裁判にかけられると聞いていたので、家族はたいへん心配しました。

母は、GHQに呼び出され、「戦に負けて帰る兵士にサービスすることは反米行為だから、すぐにやめるよう」と強く注意されました。けれども母は、「国の為に命がけで戦って帰る息子たちを、勝ち負けに関わらず母親が温かく迎えるのは当然です。もしアメリカが戦争に負けていたら、アメリカの母親は帰る息子には冷たいのか」と問いかけました。するとGHQは、「アメリカの母も同じです。サービスを続けなさい」と言い、母は、進駐軍から、新しい時代のリーダーとして、兵庫県連合婦人会に推薦されたのです。

◆芦屋市婦人会の手柄話

芦屋にはパチンコ店が1軒ありません。なぜでしょうか。戦争が終わって平和になり、街も賑わい始めた頃、日本中、どこの街にも、駅前にパチンコ店が次々とできました。芦屋市婦人会は、「パチンコは子供の教育に良くないので、芦屋市には作らせない」として、反対運動を展開しました。その結果、芦屋は、今でもパチンコ店が1軒ない、日本では珍しい街になりました。

昭和38年、当時の国鉄が、スピードアップのため、快速電車を、三ノ宮と大阪間のどこかの駅に1分間だけ停車することになるようだ、との情報を得た芦屋市婦人会は、大阪鉄道管理局へ日参して、芦屋駅に快速電車を停めるよう陳情し、運動を展開しました。その結果、芦屋は、現在も快速・新快速が停車する駅になっています。

◆芦屋大好き

芦屋は魅力ある素敵な街です。

芦屋の魅力の第1は、北に六甲連山、南にはちぬの海、山から見下ろす景色、海から見上げる景色の素晴らしさです。第2は、交通アクセスのよさです。国道2号線、43号線などの道路と、JR、阪神、阪急の鉄道網が整備され、どこへ行くにもたいへん便利です。第3は、芦屋は、「国際文化住宅都市」として、文化意識の高い街であることです。第4は、街を愛する市民意識が、芦屋を住みよい街にしていることです。台風一過したときなど、枯れ葉などで街が荒れていても、翌朝、市民が自発的に、道路の掃除をしています。芦屋を愛する住民の心意気は、素晴らしいものがあります。

私にとって世界一住み心地の良い美しい街です。「芦屋だーい好き」。

芦屋ユネスコ協会「年末講演会&親睦会」ご案内

早いもので、いよいよ今年も年末が近づいてまいりました。

平成28年度も、恒例となりました芦屋ユネスコ協会主催の「年末講演会&親睦会」を下記のとおり開催いたします。会員の皆様はもとより非会員のご家族やご親戚・ご友人・お知り合いなど多数お誘い合わせの上、奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

- ◆日 時 12月20日(火)午後6時～8時30分 <※午後5時30分・受付開始>
- ◆会 場 ホテル竹園3階
- ◆内 容 ①講 演・・・政府代表 / 外務省特命全権大使(関西担当) 鈴木 庸一 様
②食事会・・・洋風懐石 / フリードリンク
③ビンゴ・・・景品多数一(ビンゴ券1枚500円)
④エンターテイメント・・・シャンソン歌手・奥澤 節子 様
- ◆会 費 6,000円(学生3,000円) ※当日受付でお支払いください。
- ◆出欠届 往復はがきをお出しします。出席・欠席にかかわらず必ず返信してください。
※お問い合わせ等は、下記までお願いします。
【事務局】本庄 恵美 電話・FAX 0797-32-7910
- ◆回答期限 11月24日(木)<必着>
※締め切り厳守ください。できるだけお早目のお返事をお願いします。

- 【お願い】 ①ビンゴの景品提供にご協力をお願いします。家に眠っているもの(新しいもの)をお持ちください。当日受付でお手渡しくだされば助かります。よろしく。
- ②書き損じはがきがございましたら、併せてご持参ください。

新入会員ご紹介

ご入会ありがとうございました。大歓迎です。

★松本 濤 様

≪編集後記≫

異常に暑かった夏がやっと終わりました。加えて今年は夜中のオリンピック観戦も手伝って、寝不足の毎日でした。次は4年後一。楽しみです。今年もあと2カ月余り。早くも、「年末講演会 & 親睦会」のご案内を差し上げる季節となりました。皆様とご一緒に、楽しいひと時を過ごしたいと願っています。お誘いあわせのご参加をお待ちしています。

(本庄 美恵)